

高カルシトニン血症と CEA 正常値が 継続している甲状腺腫瘍例について

の 野 津 和 巳¹⁾ なび か さと し 志²⁾ なが さわ あつ し 司²⁾
い 藤 和 行³⁾ なか た のり こ 子^{1,4)}

キーワード：甲状腺髄様癌，カルシトニン，CEA，甲状腺腺腫

要 旨

高カルシトニン（TCT）血症は甲状腺髄様癌で最も高頻度に経験する。腫瘍マーカーである CEA が同時に上昇することがよく知られている。今回 TCT が著明に高値であるにもかかわらず、CEA 正常で甲状腺に悪性腫瘍を認めなかった症例を経験した。症例は 70 歳台男性。TCT は 763（正常 5.15 未満）pg/ml で著明に高値であった。CEA は 2.3 ng/ml で正常。甲状腺左葉に 21 mm の結節を認めたが、細胞診では class II で陰性であった。TCT 上昇の原因となる肺小細胞がんなどは認めていない。TCT のみ高値で CEA 正常の甲状腺良性腫瘍（腺腫）の報告が日本から 2 例報告されている。本症例と同様の所見であり、極めてまれな症例と考え報告した。

はじめに

血中カルシトニン（TCT）は、日常診療ではほぼ測定されることのない検査項目であり、TCT 異常値例を経験することは極めてまれである。TCT はカルシウムや骨代謝に影響をおよぼすホルモンであることが推測されているが、その生物学的作用については不明の点が多い。一方、

家族性に甲状腺腫瘍を認める場合がある。その際には、一般に遺伝性素因が背景にある甲状腺髄様癌¹⁾を疑い、カルシトニン（TCT）を測定する場合がある。また、甲状腺腫瘍のスクリーニング検査として、画像検査などで悪性の可能性を否定できない場合などに、本来の甲状腺腫瘍マーカーであるサイログロブリン（Tg）とともに、TCT を測定する場合もある。また甲状腺髄様癌では TCT の上昇とほぼ正比例して CEA が高値²⁾となることがよく知られている。今回 TCT 高値、CEA 正常の甲状腺腫瘍例を経験したので報告する。

Kazumi NOTSU et al.

1) 医療法人大学前のつ内科クリニック

2) 島根県立中央病院内分泌代謝科

3) 松江赤十字病院耳鼻咽喉・頭頸部外科

4) 松江生協病院内科

連絡先：〒690-0825 松江市学園 2 丁目 27-17

医療法人大学前のつ内科クリニック